

PRESSURE TANKS -GUIDE-

加圧タンク

概要

■特長

- 液体圧送・真空脱泡に適した加圧タンクです(除く「簡易圧送タイプ」)。
- 容量及び4つのタンク形状をご指定頂くことが可能です。
- 蓋の穴数(0個、3~5個)及び穴サイズ(Rc(PT)1/8~3/8)の選択が可能です。
- 追加加工によりレベル計・フロートスイッチの取付が可能です。

■商品概要

- ①容量：1~39ℓ
- ②材質：SUS304
- ③仕上方法：内外共にバフ研磨 研磨グレード #400(*注)
(*注) バフ研磨グレード：(a) #240・・・簡易バフ研磨。
光沢などを気にしない程度の仕上方法です。
(b) #320・・・一般バフ研磨。
(c) #400・・・精密バフ研磨。
当社が採用しているバフ研磨です。

■使用条件

- ①使用圧力：0.5MPa以下
 - ②耐薬品性：詳細は、下記<表1>参照
 - ③Oリング 物理的性質・耐薬品性：P.1479
- 耐油性・耐溶剤性：下記<表2>参照

<表1>ステンレス耐薬品性一覧

○：問題がない △：わずかに腐食する ×：腐食が大きい

薬液	SUS304	薬液	SUS304
アルコール	○	重炭酸ソーダ	○
エーテル	○	乳酸(5%沸騰)	△
濃アンモニア水	○	乳酸(10%沸騰)	△
酢酸	○	硫酸(5%)	△
食塩(乾)	○	硫酸(50%)	×
酢	○	塩素ガス(湿)	×
希硝酸	○	塩素水	×
濃硝酸	×	塩酸	×
無水酢酸	○	塩化第二鉄	×
無水酢酸(沸騰)	×	臭素	×

<表2>Oリング 耐油性・耐溶剤性一覧

◎：優 ○：良 □：可 △：劣 ×：不可

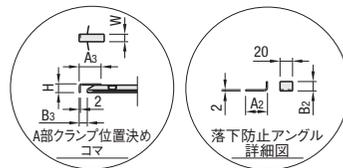
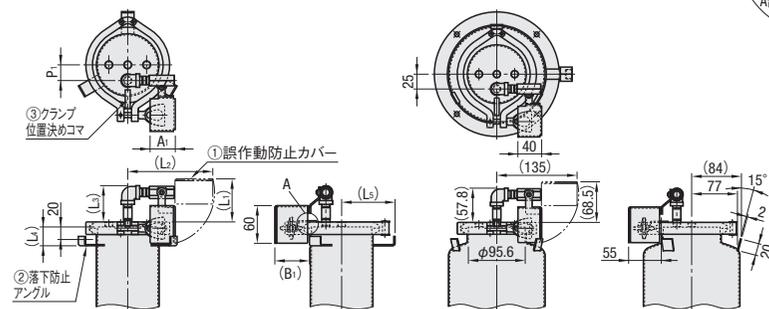
薬液	ニトリル	ふっ素	薬液	ニトリル	ふっ素
ガソリン、軽油	◎	◎	トリクレン	△	△
ベンゼン、トルエン	◎	◎	メチルアルコール	□	□
動植物油	△	◎	メチルエチルケテン	×	×
ジエステル系潤滑油	×	○	酢酸エチル	×	×
リノ酸塩素系圧力作動油	×	△	エーテル	□	×

①上記<表1>・<表2>は、一般的な参考データです。使用条件、使用環境により、変わることがあります。

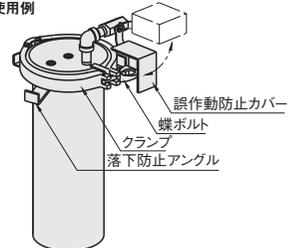
■追加加工：安全機能付タンク

■特長

- 誤作動防止カバー：カバーを上によせると、圧力が逃げることで、誤作動を防止します。
- 落下防止アングル：取り外した後のクランプの落下を防ぐことで、作業の安全性を高めます。
- クランプ位置決めコマ：安易に位置決めが可能なコマを使うことで、再現性を高めます。



Example 使用例



Type	有効容量	① 誤作動防止カバー		② 落下防止アングル		③ クランプ位置決め				(L1)	(L2)	(L3)	(L4)	(L5)	P1			
		A1	B1	A2	B2	A3	B3	H	W									
TNKA□□ (P.1420)	1.6	40	55	35	15	30	10	10	8	68.5	133.9	57.8	30	84	25			
	2.2					35	10	10	90					30				
	3.1			50	20	37	13	14	12					140	103	40	131	60
	4.4	55	70			40	16		16					145	67.8	50	158	85
TNKB□□ (P.1421)	1	40	55	35	15	30	10	10	8	68.5	133.9	57.8	30	84	25			
	2.9					37	13	12	140					103	40	131	60	
	4.7	55	70			40	16	14	145					67.8	40	131	60	
TNKC□□ (P.1422)	10			50	20	40	16	16	16	77	150	50	156	85				
	4~22.5	-	-			30	10		10				8	-				

使用上の注意

- 当カタログの加圧タンクは、第一種及び第二種圧力容器ではありません。
- ご使用にあたっては、上記の使用条件を守り、加圧時は安全上、圧力計・リリーフ弁・レギュレータを取り付けてください。
- 内圧があるときは、蓋やノズルを締め付けているクランプ等を絶対にゆるめないでください。
- スチーム・加熱・化学反応によって蒸気の発生する容器としては絶対に使用しないでください。

取扱いにあたって

- 本製品の蓋部分には、Oリングを採用しております。蓋を閉める時は必ずOリングがタンク本体の溝に、確実にセットされている事を確認し、作業してください。
- クランプは手で締めした後、回らなくなった所より更に工具等で約半回転程度増し締めをしてください。
- タンクの最高使用圧力は、0.5MPa以下です。必ずそれ以下の圧力でのご使用をお願いします。また、タンクを加圧仕様でお使いの場合は、リリーフ弁の併用を推奨致します。
- クランプを緩める時は必ず、リリーフ弁等で内圧を大気状態に戻してください。更に圧力ゲージ(レギュレータ)が大気状態になっている事を確認してください。

52 サニタリー管
真空配管部品・タンク